



市教委だより



子どもたちの目を見てください

「子どもの目を見てください、そこに不安はありませんか、
悲しさや怯えはありませんか、……子どもの目は輝いていますか。」

子どもには常に目を輝かせていて欲しい。それこそが子どもの本来の姿ではないでしょうか。そのためには、「愛されるぬくもりを感じる」ことが必要です。

家庭で、家庭を支える地域社会で、子どもたちに十分な「ぬくもり」を与えてあげてください。

近年、子どもを取り巻く環境は、いじめや虐待などの悪い事案が目立っています。

学校をはじめとした教育機関・児童福祉機関は、子どもを守ろうと努力を重ねています。

それでも、なお、「誰にも相談できず、一人で傷つき苦しんでいる」子どもがいるのではと心配しています。

皆さまの周りの子どもたちはどんな様子ですか。子どもを見てください、その傷つきやすい心にご配慮をお願いします。

何かお気づきのことがありましたら、学校、教育委員会までお知らせください。

四万十市教育委員会
四万十市小・中学校長会

2月15日、子どもを取り巻く環境について、教育委員会と市立学校は緊急の校長会を開催しました。

会では、いじめや虐待の防止について、関係機関の協力を得ながらこれからも努力を重ねていくことを再確認しました。

ご理解とご協力をお願いします。



間伐体験とマイ箸作り

1月17日(木)に、具同小学校の5年生63人は入田の山林で森林体験学習を行いました。この学習は、高知県山林協会による「山の一日先生派遣事業」として実施したものです。

当日は、前日までの寒さも和らぎ、小春日和の良いお天気でした。まず始めに、学校で森林の働きや間伐の必要性等についてお話を聞きました。子どもたちは、高知県が県の面積に占める森林の割合が全国一だと聞いて大変驚いていました。

次は、いよいよ間伐。場所は、学校から自転車で10分ほど離れた、入田の久保さんの山林です。子どもたちは8班に分かれ、協会や市役所、森林ボランティアの皆さんに教えていただきながら、ノコギリでヒノキを切り始めました。なかなか上手く切れず、四苦八苦している班もありましたが、木が倒れる瞬間は、あちこちから感動の拍手や歓声があがりました。



午後からは間伐材を利用したクラフト「マイ箸作り」を行いました。最初は恐る恐る使っていた小刀にも次第に慣れコツをつかみ、形にもこだわったりするなど様々な「マイ箸」を作っていました。そして、最後に自分の名前を焼き付けてもらって完成です。中には、一生懸命家族の分も作った人もいたようです。自分で作ったお箸で食べるご飯は、格別においしいでしょう。

このようにして、体験を通して木の役割や森林の大切さを直に学ぶとともに、ふるさとの自然の豊かさやその仕組み、また、その保全についても少しずつ考えることができるようになったのではないかと思います。